日本商工会議所
The Japan Chamber of Commerce and Industry

# 業種別の動向

前月と比べたDI値の動き　改善　ほぼ横ばい　悪化

## 建設業

**設備投資が底堅く推移する一方、中東情勢の緊迫化に伴うエネルギー・資材価格の上昇や調達困難化により、ほぼ横ばい。一部事業者からは、受注の減少や工事の延期・縮小等の影響が聞かれている。**

- 「管内（札幌・千歳）における高利益率の大型建築工事が増加したことから、業況は改善している」（一般工事業）
- 「中東情勢の影響でほとんどの建築資材で値上がりが発生している。仕入価格が上がりすぎて、見積もりを出しても金額を見て諦めるお客様が増えている。当社の利幅を下げて対応しているが、それでも受注は減少している」（リフォーム工事業）

## 製造業

**中東情勢の緊迫化に伴うエネルギー・原材料価格の上昇や調達困難化の影響を受け、悪化。原材料の納入制限等により、生産量の減少や売上の機会損失を指摘する声が散見された。**

- 「中東情勢の影響による原油不足や高騰の影響で、原材料や資材等の調達が十分にできていない。また、金属加工に必要不可欠な加工油やナフサ等も不足しており、今後も調達難が続くと、工場の稼働が止まってしまう恐れがある」（自動車・附属品製造業）
- 「ナフサ不足により新規の包材に納入制限がかかった。印字内容に少しでも変更が生じると新規扱いとなるため、新製品の製造ができない」（食料品製造業）

## 卸売業

**建築資材関係や機械器具関係を中心に仕入価格の上昇や調達困難化の影響を受け、悪化。一部事業者からは、先行きについて、影響の長期化に伴う資金繰りの悪化を懸念する声が聞かれた。**

- 「石油関連製品の供給制約により、一部取引先から見積もり不可や新規取引不可を提示されている」（機械器具卸売業）
- 「ナフサショックの影響が大きすぎる。今後、建築業界では、材料がなくて完工できず、お金がもらえない状況が相次ぎ、資金繰りが悪化する企業が増加することが想定される。政府には制度融資の検討を進めて欲しい」（建築材料卸売業）

## 小売業

**長引く物価高で消費者の節約志向が高まっていることに加え、中東情勢の緊迫化に伴う包材等の仕入価格の上昇や調達困難化が重なり、悪化。**

- 「値上げにより売上は確保できているが、物価高による節約志向から客数は減少している。包材やトレイなど仕入コストも増大している」（商店街）
- 「ナフサ不足の影響で仕入先から生産中止の連絡が相次いでいる。メーカーによる値上げも凄まじく、一部ではお客様の買い占めも始まっている。当社の商品のほとんどが石油由来のため、事態の早期収束を望んでいる」（文房具小売業）

## サービス業

**中東情勢の緊迫化に伴う仕入価格の上昇を受け、悪化。なお、観光関連業からは、今年の大型連休は近場の観光施設・飲食店を中心に好調だったものの、その後は勢いに欠けるとの声が聞かれた。**

- 「エンジンオイルやブレーキオイル等の油脂類やタイヤなどで欠品や納期遅延が発生している。現在の在庫が尽きた後の新規手配の目途が立たず、先行きの営業に不安がある」（自動車整備業）
- 「GWは近場のレジャー需要が好調で売上が増加したが、GW以降の客数は伸び悩んでいる」（飲食店）